



膠水

にかわすい



概要

膠水（にかわすい）は日本画の制作において、主に絵具を画面に定着させるものとして使用する溶液で、膠液を水でうすめたものをいいます。

三千本膠（さんぜんぼんにかわ）を用いる一般的な膠液の作り方としては、膠1本：約10gをタオルなどに包み細かく折ったものと水50～100ccを容器（膠鍋）に入れ、直火を避けボウルや鍋を使用し湯煎で溶解します。沸騰してしまうと定着力が弱まるので、かき混ぜながら行います。完全に溶けた後、不純物を取り除くためにガーゼで漉してから使用します。ちなみに、礬水液（どうさえき）の原液は膠液です。

膠液は気温が高いと腐敗やカビが発生し接着力が低下するため、夏季は冷蔵庫で保存して、数日で使い切るようにします。冬季は常温でも固形化しやすいので、時々温ためながら使用します。凍結させるとコラーゲンが破壊され接着力がなくなります。接着力は気温や湿度にも影響されるので、夏季はやや濃く、冬季はやや薄く濃度を調整します。ただし、膠が濃すぎると画面に亀裂が入りやすく、薄すぎると絵具が剥落しやすくなるので注意が必要です。膠は薄いほど絵具の発色は良くなるので、可能な限り薄い膠液でしっかり絵具が定着することが理想的です。

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

A

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

M

N

O

P

Q

R

S

T

U

V

W

X

Y

Z

数字

膠液をつくる（三千本膠の場合） 参考例 1



手順 1. 三千本膠 1 本を布でくるみ、膠鍋に入る大きさに折ります。



手順 2. 折った膠を膠鍋に移し、50～100ccの水で浸します。これを一晚置き、柔らかくします。



手順 3. 柔らかくなったら、湯煎で煮て溶かします。その際、沸騰させないようによくかき混ぜながら溶かします。



手順 4. ガーゼをかけたボウルを用意し、膠が完全に溶けたらボウルに注ぎ入れます。ガーゼで漉して不純物を取り除いたら完成です。

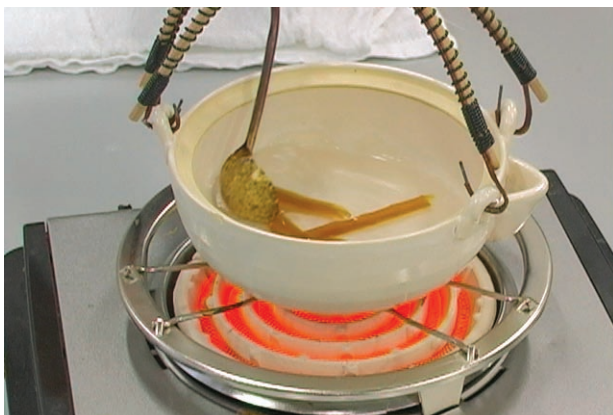
膠液をつくる（三千本膠の場合） 参考例 2



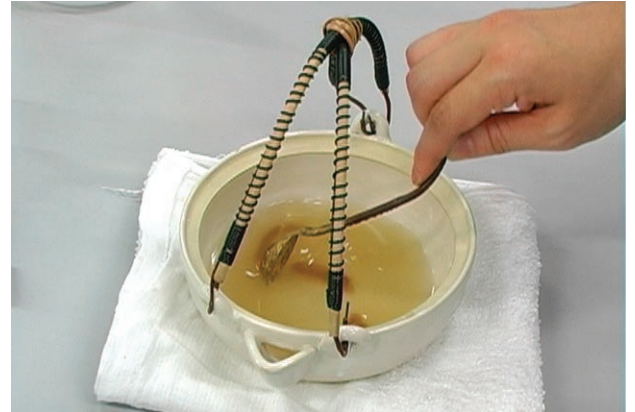
手順 1. 三千本膠 1 本を布でくるみ、膠鍋に入る大きさに折ります。



手順 2. 折った膠を膠鍋に移し、50～100ccの水で浸します。



手順 3. 膠鍋が割れないように直火を避けて温めます。その際、膠鍋の底に膠が付着しないよう、膠匙でかき混ぜます。



手順 4. 沸騰しそうになったら電熱器からおろしてかき混ぜます。冷めてきたら、溶けきっていない膠を溶かすため、再度電熱器にのせて温めます。完全に溶けるまで、これを何度か繰り返します。



手順 5. ガーゼをかけたボウルを用意し、膠が完全に溶けたらボウルに注ぎ入れます。ガーゼで漉して不純物を取り除いたら完成です。